

責任ある行動を

六年 櫻井 冴風

ぼくは動物の命は、人間と同じ大切なものだと思います。

例えば、家で飼っている猫が子猫をたくさん産んだとします。でも、家では全ての子猫を飼うことはできません。友達や近所の人に飼ってもらうのも手ですが、子供が生まれる前に、家で飼っている猫に去勢手術をするのは、一つの方法です。飼えない子猫を、動物保護団体や保健所などに連絡できますが、保護してもらうには簡単にはできないそうです。だからこそ飼えない動物を増やさないようにしないとけないと思います。自治体に引き取られた猫は殺処分される可能性があります。およそ4分の1が殺処分されて、その半数以上が子猫であるという悲しい現実があるそうです。

また、飼育放棄が起きていることを悲しく思います。それは、大きく分けて二つあります。一つ目は、飼い主側の理由です。引越越し、経済的な理由、家族構成の変化、飼い主側の高齢化です。二つ目にペット側の理由です。問題行動、ペットの病気や高齢化、予想外の大きさや繁殖です。そこで、ぼくはペット補助金という制度を作り、国が補助金を出すのはどうだろうかと思えます。そうすれば、去勢手術の費用やえさ代にお金がまわり、飼い主の負担が少しでも減ると思うし、動物を飼いたい人が増えると思うからです。

動物保護団体も予算や人手に限界があるそうです。この人たちはボランティアです。その活動で、新聞記事やポスターなどを作り、人々に情報を伝えることができるように、補助金やクラウドファンディングなどを使い、活動費にできたらいいと思います。

ぼくの家では、野良猫から生まれた猫を飼っています。名前はラテといいます。家族に反対されましたが、姉がどうしても飼いたくて、三年前に生まれた子猫を近所の人からもらってきてしまいました。今は、家族みんなにとってラテはなくてはならない存在です。家族みんなでラテを可愛がり、お世話をしています。ぼくにとってもラテは可愛い自分の妹です。寝るときは同じ布団の中で手を舐めてくれ、学校に登校するときには、一緒に外に出ます。ぼくに「いってらっしゃい」と言ってくれているみたいで可愛いです。家の外に出でしまって、夜中帰ってこないときは、玄関から「ラテ！」と呼んで、帰って来ないと、不安になります。動物を飼っていて飽きたら捨てるなんて無責任な行動は、ぼくや家族にとっては考えられません。

動物の命は十年から二十年です。その間、ケガや病気になる事もあるけど、その時は人間と同じように接していきたいです。ペットを飼うときは、最後まで責任を持って世話をすることが重要です。また、ペットを飼う前に、これらのリスクを十分に理解し、覚悟することが大切だと思います。